

研究名「内視鏡的粘膜切除術における標本回収方法の比較検討」

背景

大腸ポリープは日常診療で比較的遭遇する機会が多い疾患で、内視鏡的切除が広く行われています。一人の患者様に大腸ポリープが複数存在する場合、検査・治療の負担を軽減するために、ポリープを切除した後の標本回収を内視鏡の鉗子孔を通して吸引して行い、内視鏡の抜去・再挿入を避けることがあります。

しかしこれまでのポリープ回収用トラップは内視鏡操作部を経由して標本が回収されるので、標本を変形させたり、傷つけたりすることがありました。適正な病理学的検討のためには標本の傷や変形を可能な限り減らすことが望ましいと考えております。このため最近では鉗子挿入口に注射器をさして吸引し、鉗子栓で標本を回収する方法が提案されています。しかしこれによって標本につく傷が減らせるかどうかという検討はまだ行われておりません。

目的

このため本研究では大腸ポリープを内視鏡的に切除し、標本を吸引して回収した場合、注射器を用いて鉗子栓で標本を回収した場合と従来通りのポリープ回収用トラップを用いて回収した場合、標本の傷や変形に差があるかどうかを検討します。

方法

本研究では2017年12月から2018年2月までの間に当院で内視鏡的粘膜切除術が行われた患者様を対象として行われます。診療録から個人を特定できない形で、標本の大きさ、壊れていないかどうかを評価し、統計学的手法によって検討します。全体の平均年齢・性別については患者様の背景として算出しますが、これを検討に用いることはしません。個人と標本の性状との関連についても調査しません。

注射器による標本回収の方が標本に与える影響が少ないと分かれば今後適正な病理学的検討が多くの患者様に行える可能性があります。

診療情報の使用を希望されない方や、ご不明な点がございましたら遠慮なく胃腸内科医師にご連絡ください。

(問い合わせの窓口)

東北労災病院 所在地：981-8563 宮城県仙台市青葉区台原4丁目3-21 電話：022-275-1111

担当者氏名：白木 学